



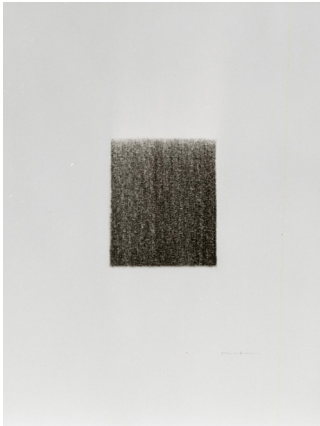
1



2



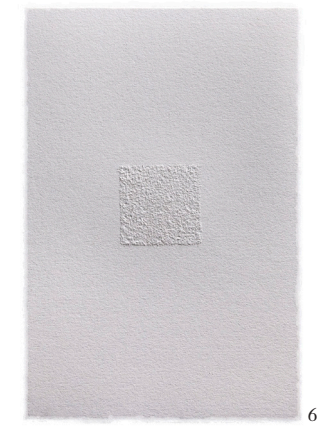
3



4



5



6

- 1《無題》1998・1999年 | 油彩、キャンバス | 162.0×130.0cm
 2《無題(礼文)》1986年 | 油彩・アクリル、紙 | 61.9×45.2cm
 3《無題》1980年 | 透明水彩、紙 | 62.5×50.7cm
 4《PSALM 1(詩篇)》1979年 | ドライポイント、紙 | 30.5×24.5cm | 8点組
 5《聖夜》2007年 | 墨・油彩・鉛筆・鉄筆、紙 | 19.1×15.1cm
 6《十字架の道》2001年 | ドライポイント・ニードル、紙 | 22.0×15.3cm | 14点組
 4・6目黒区美術館蔵、ほかは個人蔵

表《無題》1998・1999年 | 油彩、キャンバス | 162.0×130.0cm



JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・
 都営三田線:[目黒駅]下車 徒歩10分
 東急東横線・東京メトロ日比谷線:[中目黒駅]下車 徒歩20分
 東急バス:[権之助坂](目黒通り)下車 徒歩5分
 [田道小学校入口](山手通り)下車 徒歩3分
 *目黒区民センター隣接



Meguro Museum of Art, Tokyo
目黒区美術館

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36

Tel. 03-3714-1201 | www.mmat.jp

*メルマガ会員募集中 | <https://service.sugumail.com/mmat>

村上友晴(1938～)は、目黒区在住の日本を代表する現代作家、独自の世界を貫くその姿勢から生まれた静謐な絵画に対して、昨今国際的評価がさらに高まっています。

村上は、母の実家福島県三春町で生まれ、東京で育ちます。幼少期は、東京上野界隈に住んでいたことから東京国立博物館に親しみ、特に「墨」の表現に興味を持ち、東京藝術大学の日本画科へ進みました。1961年に卒業した後、顔料による黒一色の絵画を描き始め、読売アンデパンダン展に出品、個展も精力的に開き、1964年にはグッゲンハイム国際展の出品作家として、26歳の若さで抜擢されます。その後、洋画家としての絵画世界を追求することになりますが、終始一貫しているのは、紙やキャンバスにペインティングナイフや筆で、黒い絵具を、注意深く、密やかに置きながら画面を創り上げていくという姿勢を持つことです。この仕事は、1960年代から現代まで続いています。1990年代には紙の仕事に変化が現れ、あらたな表現が展開していきます。それは、白い紙をベースに、わずかな厚みの表面に鉛筆やニードルでデリケートな痕跡を残す繊細な仕事。削っていく、消していく、ともいえるその表現は、黒い作品とは対照的であるものの、あたりの空気や光を吸収するほどの力を内包しているところは共通しています。

このたびの展覧会では、村上の色でもある黒・赤・白に注目し、それらの時間的に積層する色の深さに迫るとともに、新作を含む近年の紙の作品も取り上げ、目黒区美術館が所蔵している作品と構成しながら、村上友晴の絵画の世界に触れていきます。

生きるために描く。呼吸をすることと描くことが同じことのように、村上は画面に向かいます。その、静謐で凛とした画面を凝視すると、描き続ける行為として画面に刻まれた気の遠くなるほどの長い時間が、絵具のマチエールの間に折りたたまれていることに気が付きます。作品に向き合う村上の、祈りにもたとえられる深い精神世界をご高覧ください。

関連催事

- ・大人のための美術カフェ | 11月24日(土) | 15:00～16:00
 担当学芸員が、村上友晴展に至るまでの美術館活動についてお話しします。
 聴講無料、ただし当日の観覧券が必要です。
- ・会期中、ミュージアムコンサートを行います。
 詳細は、目黒区美術館のウェブサイトをご覧ください (www.mmat.jp)。

主催:公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

協力:横田茂ギャラリー

区民割引:目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります(他の割引との併用はできません)。



7《無題》2018年 | 鉛筆・ニードル、紙 | 19.0×25.0cm